

（別紙 21）団体むけくボランティア活動運営支援＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜ボランティア活動運営支援＞

災害時のボランティア活動を被災者にとってより良いものにするためには、災害 VC の運営支援や協働プラットフォーム（情報共有会議）の開催支援など、自主的なボランティア活動を、支援者同士、被災地の行政や地元住民と繋ぐ取り組みが大変重要です。また、一つひとつの取り組みを繋いで同じ情報を共有することは感染症対策を適切に実施する上でも重要な意味を持ちます。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
災害 VC アドバイザー/運営支援	低	低	高	低	中

＜事前準備＞

○ 参加するメンバーの限定と事前隔離

- 感染リスクを下げるため、参加するメンバーはできるだけ限定し、長期間活動できる人を選定しましょう
- 1 週間前からを目安に体調を記録して、少しでも体調に不安がある際には参加を見合わせましょう
- 1 週間前からを目安に可能な限り自己隔離し、3 密ができる場所や不特定の方が出入りする飲食店などの利用を避けましょう

○ 感染対策の基礎・災害 VC 設置マニュアル等の事前学習

- 感染対策の基礎を確認すると共に、支援に入る市町社協等が作成している災害 VC 設置運営マニュアルを事前に確認しておきましょう

○ 交通手段及び宿泊について

- 現地への移動、現地内での移動はできる限り 3 密を避けるため、自家用車やレンタカーを活用する等しましょう
- 宿泊は原則個室を確保し、どうしても相部屋になる場合は換気を徹底してマスクを着用するようにしましょう

○ 感染予防備品の確保

- マスク、携帯型のアルコール消毒薬、体温計など感染予防、体調管理に必要な

備品は、活動中でも使いやすいものをすべて持参する準備をしましょう

○ 抗原定性検査の実施も検討する

- 被災地内の医療機関が切迫している、重症化リスクの高い方と多く接する等の場合は、当日に抗原定性検査を行って感染リスクを下げることも検討しましょう。

<活動中>

○ 飛沫対策（間合いの確保、マスクの着用、換気）の徹底

- 運営支援の場ではどうしても会話をする場面が多くなります
 - ◇ お互いにできるだけ2mの間合いをとれるよう声をかけ合いましょう
 - ◇ 人の多い部屋に居る場合や会話する際は必ずマスクを付けましょう
 - ◇ 室内で作業する場合は必ず換気しましょう（常時換気がベスト。少なくとも30分毎に5分換気）

○ 行動範囲を限定して、不特定多数の人との接点を避ける

- 活動中は行動する場所をできるだけ制限し、不特定多数の方との接点となる場所への外出を避けましょう

○ 食事や休憩、喫煙、場所の移動時などは感染リスクが高まるので注意

- 食事や休憩に入る際、終わる際、移動する前、到着後など、場面が変わる時には流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行いましょう
- 食事や休憩時、喫煙時はマスクをしていない状態で人が集まりやすくなるので、特に注意しましょう
- 打合せに出かける際、帰る際など、場面が変わる所は予期しない状況が生まれやすいので注意しましょう

<活動後>

○ 帰路での3密回避

- 疲れから集中力が低下しやすいので帰宅までの感染対策を再確認して解散しましょう
- 夕食時/入浴施設等を利用する際も3密回避を意識しましょう